



ぎない。

業者と幹部の裏取引から経理のズサンさに至るまで、日赤内部の乱脈ぶりについては「知る人ぞ知る」である。

日赤と皇室との関係、国際赤十字社会とのつながり、というような理由からヒタ隠しにされていたにすぎない。今まで表沙汰にされなかつたのが不思議なくらいだ。

こう云うと、まるで人ごとのように聞えるかもしれない。また、家の中の不祥事はなるべく隠したいのが人情だ。それを何故に敢えて公表しようとするか？

自明の理である。積年の乱脈につながる今度の事件で、最も被害をこうむつたのはわれわれであるからだ。日赤の事業に対して誇りと熱意をもつて働いてきたわれわれだからである。

無能力、無節操な幹部と一部の不心得者のために、われわれまでが疑惑の眼で見られるのだ。

だからこそ、われわれは声を大にして叫ばなければならない。

「どうぞ世の中の手で隅々まで洗い出し、徹底的に責任を追求して下さい。われわれこそ疑惑を感じ、被害をこうむつたのです。氷山の底までさらけ出され、真相が判明したならば、大多数の日赤従業員は社会の底辺に甘んじながらマジメに働いていたことをご理解下さるでしょう」と。

また、そう叫ぶのが社会の善意の人々に對するわれわれの当然の義務である。

恐らく幹部や不心得者は、何とかもみ消そう、これ以上拡がらせまいと努めるだろう。だが、吾々は断じてそれを許してはならない。現に二月に起きた静岡県支部の事件が発端でありながら、拡大するのを怖れて今日まで公表を抑えてきた傾向があるのだ。

世に日赤はウバ捨山と云われるとおり、官公庁を停年退職してきた恩給取りの連中が、能力の有無にかかわりなく幹部に横滑りして

きているのだ。

この連中に処理を任せてはならない。社会に對する日赤の名譽回復、事業の發展を考へる前に、己れの高給の座を失うまいとすることにきゆうきゆうとし、何とかゴマ化してこの場を逃れようとするからだ。また中には、直接、間接今度の事件に連坐している者もいる筈だ。

数支部の高額な融通手形発行の裏には、何かある！と考えるのが常識である。

そればかりではない。規格外の寸足らずの物品納入を黙認し、機械料を市価よりも高値でセンイ業者から購入し、現金を業者から直接贈与され……、挙げ出したら際限のないことである。

吾々は、社会に對する謝罪の意味においても、今度の事件を絶対黙視すべきではない。若し黙視しようとする人があるならば、その人に後めたさがあると思われても仕方なからう。

組合員諸君！

日赤の隅から隅まで浄化しようではないか。長年のゴミを一掃しようではないか。病院たると支部たるとを問わず凡ゆる不審事、不祥事を、新労本部に届出られたい。

組合員諸君！

日赤幹部の責任を徹底的に追求しようではないか。総退陣を要求しようではないか。

こういうデタラメな幹部のもとで、どこに日赤の發展があり、どこに労使協調があるのか、考えるまでもないではないか！

立上ろう！

責任を徹底的に追求しよう！

日赤のために、社会のために。